

「小学校のあり方について」白萩西部校区懇談会

- 1 日 時 令和4年3月27日(日) 14時00分～15時40分
- 2 場 所 上市町文化研修センター 3階大会議室
- 3 参加者 40人(会場参加33人・オンライン参加7人)
- 4 出 席 中川町長、小竹副町長、牧田教育長、中村総務課長(司会)、
碓井企画課長、平井教育委員会事務局長
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会挨拶(中川町長)

4年半前の町長就任時に、「現在の小学校の配置を維持する」「小学校は地域の核である」とお話しさせていただいた。しかし、その後、新生児の数だけでなく、日本の人口そのものが減少しつつある。昨年の日本の新生児数は、統計を取り始めてから最小となり、84万3千人を割っている。上市町においても、昨年1年間の新生児数が70人を割っており、これは35人学級に換算すれば町全体でも2クラス分の人数でしかない。

加えて、上市中央小学校は、築60年を経過している。この建替えを行う場合、どのような考え方で行えばよいのか。町内で小学校を1校、又は2校に集約するのか、それとも全校を維持するのか。昨年の新生児数で、町内小学校6校の(当該学年の)平均児童数を見たとき、1校あたり12人程度の人数となる。このような状況において、本当に子供達が良好な環境で学ぶことができるのか。

小学校のあり方について、いろいろな御意見をいただいた。小規模校には小規模校なりによいところがあるという御意見もあれば、陽南校区の懇談会では、複式学級は絶対にやめていただきたいという御意見もあった。

私は、議論のたたき台とするため、私の思いとして「小学校の再編・統合はやむなし」と述べ、皆様はいかがでしょうかと問いかけさせていただいている。皆様の思いを聞かせていただきたい。一緒に、小学校をどうしたらよいか、考えていきたい。

(2) 説明「小学校の適正規模等への見解他」

牧田教育長、平井教育委員会事務局長より別紙資料及びスライドに基づき説明

(3) 質疑応答

発言者①

これまでの清水町政・伊東町政においては、現有の学校を存続するという方針で臨まれていたが、少子高齢化という問題が顕在化して何年も経過していたにも関わらず、このような状況に至ったことについては、(将来の)読み方を誤ったと町民に詫びるべきである。

また、白萩西部町営住宅は、白萩西部小学校の校区内の施設としてつくられ、20人程の児童が同校に通っている。この住宅について、例えば、上市中央小学校との統合等があった場合、どのような利用をしていくのか、そうしたことも含めて物事を考えていく必要がある。学校だけの経済的な理由、あるいは子供がいないという理由だけで判断しては、将来を見誤る元になると考える。

町長

御指摘のとおり、清水町政・伊東町政においては学校の存続を方針としてきたところであるが、私の代になって問題提起をさせていただいた。

かつて、白萩南部小学校において、(少人数のため)体育の授業ができないという事態に陥り、同校の5・6年生の児童をタクシーで上市中央小学校まで送迎し、一緒に授業を受けていたことがあった。こうした存続の努力を行ってきたが、それでも、白萩南部小学校は廃校となってしまっている。

1クラス5～6人で授業することが、本当に子供のためになるのか。兄弟・家族感覚で授業を受けることがよいことなのか。私は疑問に思っており、私の意見として「再編やむなし」という言い方をさせていただいている。今後、皆様の御意見を伺いながら、この問題に答えを出していくことになる。

また、複式学級について、今までは、児童数の減により複式学級が生じる場合においても、町単独で講師を任用することで、複式学級を回避してきた。しかし、今後、町が単独で講師を確保することが困難となっている(県下でも、本年4月からのクラス担任が決まらない学校が多く存在する。)。幸い、当町においては、本年度は町単独で講師を確保し、複式学級を回避することができた。このように、学校運営にあたり努力していることを御理解いただきたい。

私が町役場へ入庁した頃、上市町の人口は25,000人を上回っていたが、私が町長になって以降、20,000人を割っている。これは、すべて私の責任である。こうしたことから、令和4年度の予算においては、人口増対策を柱に据えている。ある議員さんからは、学校の統廃合の前に人口増対策に取り組むべきという御指摘をいただいているが、人口増対策はこの状

況を変えられる程短期間で成果を挙げられるものではない。こうしたことを御理解いただき、これからの議論に入っていただければと思う。

発言者②

この議論のなかで私が抜けていると考える点は、この町に住む子供達をどのような育てたいのか、目指すべき子供像を前面に語ってほしいということである。その上で、そのためにどのような環境が必要か、学校、地域住民等で議論していくべきだと思う。日本の子供の一番の問題点は、自己肯定感がない、将来に対し明るい展望をもっていないということであり、そういう子供達でよいのか。そこに切り込むためには、どんな教育環境をつくっていくのかを話し合ってほしい。その上で、どのような小学校のあり方がよいのかを議論してほしい。

町では、町単独で講師を確保して複式学級の解消を図っておられるが、小学校の時代は、生きていくための力を育む、そうしたことを自由にできる環境づくりがとても大事だと考える。これらを踏まえて、議論を進めていただきたい。

(質問として) 義務教育学校について、どのような背景でできた制度なのか。また、義務教育学校の設置は誰が決めるのか。

教育長

義務教育学校の設置を選択するのは、地方自治体、すなわち町である。

この制度がつくられた背景として(私の把握限りで)、小学校6年・中学校3年の制度ができてかなりの年月が経過したが、この6・3制の問題点として、思春期の低年齢化(現在では小学校5年生くらいから始まる。)や、教育内容の高度化(小学校高学年の学習内容が昔の中学校程度)が挙げられる。こうしたこと等を踏まえ、また、日本の6・3制の元となったアメリカでさえ、それ以外の選択肢が設けられていること等から、日本においても、6・3制以外の選択肢として、この制度が設けられた。

期待される効果としては、中学校入学時に生じうる不登校や心のストレス、また、あってはならないが中学校1年生で特に多いいじめの問題等について、これらの軽減が期待できる。

一方、懸念される点として、小学校6年生から中学校1年生への進学にあたっては、困難を乗り越える力を養うことで成長する部分があるが、そうした場が奪われるという懸念がある。

発言者③

来年度(令和4年度)は、複式学級はないという認識でよいか。

教育委員会事務局長

複式学級に該当する学年は存在するが、町単独での講師確保により、実質的に複式（2学年同一級）を解消している。

発言者③

2年生と3年生との場合のように近接した学年での複式学級だけではなく、将来的には、変則的な複式学級もありうるのか。

教育委員会事務局長

複式学級については、下の学年から順番に組んでいくこととなっている。1年生が対象となる複式は児童数8人以下と他の学年より緩和されており、1年生が単独でできるとなった場合は、2年生・3年生で複式の該当を判断（あわせて15人以下であれば複式対象）し、2年生・3年生で複式となった場合は、次の4年生・5年生で複式に該当するか判断していく。

発言者③

その学年が複式学級になるということについては、児童等は4月の始業式の時点で知ることになるのか。それとも、複式学級になることが決まった時点（講師を確保できないことが判明した時点等）で、事前に保護者宛てに案内があるのか。

教育委員会事務局長

複式学級の解消については、講師を確保できるかどうかによる。来年度については、早い段階で講師を確保できることが見込まれていたが、3日程前の例では講師がなかなか見つからず、ようやく始業式当日に講師を確保したということがあった。実際に複式学級として運用するかどうかは、4月の講師の配置状況によることから、必ずしも3月中に判明するわけではない。

発言者④

地域の皆が納得する答えを見つけるのは大変なことだと考えている。子供が自己肯定感をもてないという御意見があったが、それは親自身が自分に自信をもてないことが子に反映しているのではないかと思われる。親も含めて、町民みんなで、子供の未来を真剣に考えながら、自分自身ができることを探してやっていくことが大事だと思う。町としても、ビジョンを大きく掲げていただきたい。また、教育に投資しない国はやがて亡びるという危機感を抱いており、未来に投資を、教育に投資を、ということを訴えていきたい。

発言者⑤

資料 15 ページの標準的なスケジュールに関して、統廃合自体は何年から行われるのか。そうなった場合、登下校にあたりバス等を用意していただけるのか。

また、学童保育に関して、最初から 1 校 1 施設集中の大きな単位で行うのではなく、例えば、最初は白萩西部地区と陽南地区を統合して運用する等小さい単位でまとめた方が、子供達も慣れるのではないか。

町長

統廃合の時期についてであるが、このあと、残りの校區別に御意見を伺い、令和 5 年度中に町民の皆様からの意見と町としての意見をあわせて審議会に諮り、令和 6 年度に答申を受けることとなる。ただ、統廃合といっても、その内容については、どことどこを統合するか、どこの学校に統合するのか、あるいは小学校だけで統合するのか、中学校も含めた統合とするのか、こうしたことを検討させていただく。そうなれば、統廃合自体は、令和 6 年度よりもっと後の話になると考える。

上市中央小学校については、過去の大規模改修やインターネット環境の整備等により、借入金の未償還額が約 3 億円ある。建替えを行う場合は、この未償還額の返還処理や、国庫補助金の返還対応等について解決するための議論をしなければならない。そう考えれば、建替えの時期は令和 10 年度くらいであろうか。ただ、統廃合自体はもっと早い時期にできるかもしれない。少なくとも、令和 5 年度までに答えが出る問題ではないと考える。

教育委員会事務局長

スクールバスについては、現在、小学校では弓庄地区（上市中央小）、山加積地区（南加積小）、大岩地区（陽南小）でスクールバスを運行している。統廃合に伴い、通学距離を鑑み徒歩では通学できない児童が見込まれることから、そうした児童の登下校の手段を確保していく必要があると考えている。

学童保育については、大変参考になる御意見と考えている。統廃合後の学童保育に、子供達が最初から一同に集まってしまうと、とまどいを感じる子もいるかと思われる。そうしたとまどいを解消できる方法がないか、検討させていただきたい。

発言者⑥

白萩西部小学校は、小規模特認校となっており、例えば、発達障害の児童についても校区外から受入れを行うことができる。この小規模特認校が仮になくなった場合、こうした児童の受入れを、元の校区の学校が面倒

をみてくれるのか。

教育長

御指摘のケースも含めて、統合についてどう考えていくのか、これから検討してまいりたい。

発言者⑦

小規模校の方がよいと思っていたが、説明をお聞きしたところ、そうともいえない、児童数の少ない小学校にメリットがあるのか、と感じた。本日の説明では、大規模校と小規模校との比較、あるいは制度的な比較等をお伺いしたが、大事なのは教育の中身ではないか。どのような教育方針で臨むかということが、本日の説明ではわからない。遅かれ早かれ、統合に進むという前提があるのであれば、どういう魅力的な中身をつくるのか、はやりものや他自治体の真似ではなく、独自性を持つことができれば、想像以上によい学校ができるかもしれない。私としては、本日の説明内容は薄すぎる。この問題について、もっと理解できるようにしていただきたい。

教育委員会事務局長

望ましい1学級の児童数について、15名から25名程度としていることについて説明させていただきたい。学習内容については、従来の「一方通行」の学習から、「学び合う」学習へと変化しており、自分を発信することを学ぶ手法として、グループ学習が意味を持っている。1学級15人であれば、5人×3グループで意見交換できる環境を得ることができる。逆に、児童数があまりに多いと、例えば35人以上の児童を相手にタブレットを使って授業をする場合など、教員が管理できるのか、大変むずかしいと考えられる。このように、児童数が多すぎるということも問題だが、少ないということに関しては、15人以上であれば運用しやすく、子供の学びも向上すると考えている。

発言者⑧

小規模特認校について、学校のホームページでは「自然あふれるところで学びたい方を、町の校区に関係なく広く来ていただく」と書かれている。小規模特認校に、例えば、障害を持つ子供が他校区から入学する例もあるが、本来、小規模特認校はどなたでも入ることができる、このことを誤解しないよう、当該校区の住民自身が理解しないといけないと思う。

それと、義務教育学校や小中一貫校について、他市等の実例を示していただきたい。本日の参加者のなかには、(小学校の再編・統廃合について)ある程度覚悟しておられる方もいると思うので、それらについてきちんとしたお話をお聞きしたい。

教育長

御指摘の義務教育学校の実例等について、教育委員会でもきちんと情報を収集して、お示ししたい。

発言者⑨

町営住宅というものがあると、かなり子供が学校に通うような環境になると思う。それと、人口が減少することはわかっていたのだから、こうした事態に至ったことについては、(町の施策として)ある程度失敗だったと思う。新聞で、かみいち総合病院の産婦人科で分娩ができなくなるという記事を見たが、町においては改善いただくよう努力いただきたい。

その昔、先人達が私財を投げ打って学校をつくり、教育を行ったが、その時の児童数はもっと少なかった。そうして立ち上げて学校が、予算がないという理由でなくなってしまうというのはいかになものか。

また、学校を統廃合していくと、学校の特色がなくなってしまうと思う。過去の話かもしれないが、白萩西部小学校でも、習字に励んでいたとか、マンドリンで全国大会に出たとか、花壇の整備で国の賞をとったとか、そうして努力したことが、子供は子供なりに心に残るものである。白萩西部小出身の子供は、中学校でよく不登校になるといったことも聞かれたが、一方で勉強を頑張り東大・京大にいった人もいる。こうした小規模校の特色を残してほしい。予算がない、子供が減っている、学校が老化化しているといったことで、学校再編を進めていくというのでは情けない。

町長

かみいち総合病院の産婦人科の件については、町民の皆様には申し訳ない状況となり、お詫び申し上げたい。

この小学校の問題について、私は、予算の関係を理由として統合するという事は、一度も申し上げていない。教材の例で申し上げますと、ある学校にある教材が他の学校にないということはあってはならない。数量の違いはあってもよいが、同じ学年の児童が同じ教材で学ばなければならない、そこに学校間で差があってはならないと考えている。

学校の特色については、御意見のとおりだと思ふ。ただ、仮に学校を統合した後、その学校の特色を児童みんなでつくっていくというのも大きな勉強になるのではないかと思ふ。校風や制服等の議論については、(再編・統廃合の)結論が出た時点で考えればよい話であり、今この時点で議論するのは相応しくない。新しい学校の校風については、児童の皆様でつくっていただきたいと考える。

発言者⑩

通学についてお聞きしたい。現在、子供は徒歩で通っているが、(再編・統廃合が行われた場合、引き続き) 徒歩通学になるのか、スクールバスで通学できるのか。スクールバスの場合、登下校時等の運行時間はどうなるのか、例として示していただきたい。

教育委員会事務局長

通学方法については、再編・統廃合の形が見えないので、一概に申し上げることは難しい。徒歩通学については、学校までの実距離で3km以内の地区は、現在でも徒歩通学をお願いしており、同様をお願いできればと考える。スクールバスの時間帯については、通学先によって乗車時間が異なり、また、どれだけスクールバスを稼働できるかにもよるが、子供達の登下校の時間にあわせて(学童保育等への考慮も必要となるが)、なるべくお待たせすることなく運行できるように組んでいきたいと考える。

発言者⑩

昨年のタウンミーティングのときに、町長から、(小規模校を) 上市中央小学校に集約することを考えているという趣旨の発言があったので、私は上市中央小に統合されるものと思っていた。

町長

私の統合の考え方として、小規模校同士の統合は、数年後にまた同様の議論をする必要が生じると考えられることから、最初から、小規模校と大規模校の統合を考慮した方が適切ではないかと考える。

発言者⑩

スクールバスによる通学については、遠いところを一律に単体のバスで回るという考え方ではなく、複数のバスを用意すること等により、子供が乗車する時間が長くなることのないよう、御配慮いただけたらと考えてよいか。

教育委員会事務局長

できる限り、負担が生じないよう考慮したい。

発言者⑪

私も、児童数が少ない学校であれば、ちゃんと子供をみてもらえると考えていたが、体育の授業やクラブ関係、複式学級などデメリットも出てきている。本日の説明を聞いて、(小学校の問題が) 現状の枠にあわないから制度を変えるという話に聞こえる。

例えば、上市中央小学校を残すのではなく、逆に、周辺校へ分散するという考え方もあるのではないかと。また、複式学級についても、講師を呼ぶのではなく、他校の複式学級とリモートでつなぐことによって、各学年ご

とに1人の教師で授業するという(複式解消の)可能性もあるのではないか。こうした考え方も盛り込んで、今後の議論を進めていただければと思う。

(4) 閉会挨拶(中川町長)

小規模特認校として白萩西部小と陽南小を指定したが、そこへ通学をしたいという児童・保護者はなかなかお出でにならなかった。このことは、教育委員会のみならず、我々行政の力不足によるものである。小規模校には小規模校なりのよいところがあるという御意見を伺うが、実際に「我が子、我が孫をそこへ通わせよう」といった状況にはない。各学校に特色を持たせることができなかったことについては、行政の責任である。

ただ、こうして小学校の問題について議論していただけるということは、ひとつの前進と思っている。学校の統廃合を行うかどうかは、皆様の意見をお聞きした上での結論になる。これからも、町からの意見を申し上げるとともに、皆様からも御意見をお聞きして、よりベターな形で答えを出していきたいと考えている。引き続き、機会をみて、また皆様の御意見をお伺いしたい。

以上